横浜市小学校社会科研究会

５学年部会

研修会記録

第　５　号

令和5年　１１月　１日
横浜市小学校教育研究会
会長　濵田　哲也
横浜市小学校社会科研究会
会長　加藤　和之
同　学年部長　宮原　美由紀

【提案日時】
令和５年１０月４日（水）

【会　場】
平沼小学校

提案　伊藤　夏芽先生（緑園学園小）
司会　比嘉　将来先生（西富岡小）
記録　森下　夏帆先生（稲荷台小）

【提案】

単元名「自然災害と人々の暮らし～“南海トラフ巨大地震”から見たそれぞれの思い～」

【提案者より】

南海トラフ地震の震度分布図や津波予想の資料から静岡県に着目し、さらに観光地で有名な熱海市にスポットを当て、防災対策について学びを深めていく単元を目指した。

視点①自分の考えを発表するだけでなく、より思考ができる学習づくりについて

・切実感をもてるようにするため、子どもの知名度の高さを考慮し、熱海市を取り上げた。
・堤防の高さにかついて子どもの予想より低いことで、「なぜ?」という問いが生まれた。
・防災の日である9月１日に単元の導入を行った。災害マップを自分たちで作ることで、「日本はどこでも災害が起こるんだ。」ということに気付く。
・子ども自らで資料を選択することで、自分の体験や自分で分かりやすい資料を選択したりまとめたりして、根拠をもって考えをもつことができた。
・子どもの思考を促す資料や、「でもさ」が生まれる資料が必要だった。

視点②社会的事象の意味等に迫るためには、どのような教師の出や資料などがあるとよかったか。

・「調べたことを書くWS」と「意見を書くWS」に分けることで、抽出児も自分の考えを書いたり、友達の考えに反応したりすることができた。
・子どもの考えの根拠を明らかにするために、国語の学習でも使用していた「情報カード」を活用した。
・子どもの考えは、まちづくりの視点の考えが多く、市民や国などの視点をもたせる必要があった。
→人との出会いが必要だったのではないか。

【グループ協議】5つのグループに分かれて、グループ協議を行う。

協議内容

・児童の思考に合わせながら、疑問が生まれやすい授業を展開するためにはどうすればよいか。
・児童が多角的に考えをもてるようにするためにはどうすればよいか。

子どもの思考に合った授業展開のために

・自分の考えをもつために、自分で資料を探すことは効果的であった。
・資料を見て、納得で終わらずに、「なぜ?」を生む必要がある。
・4年生の学習との違いや、自然条件との関わりが大切。
・「横浜なら・・・」などの言葉を取り上げる。
・資料を子どもがどのくらい把握できていたのか、事前に把握する必要がある。

みとりの重要性

多角的な考えがもてるようにするために

・複数の資料は、視点が多すぎてしまうため、視点を明確にして話し合えるようにする。
・学習問題に「安全」の視点を入れた言葉を入れることで人の命に関する視点をもてる。
・「市の思い」が含まれた資料が必要。

資料の精選・掲示の仕方

【担当校長先生より】

平沼小学校　寺岡　徹校長先生

・単元目標は本時で抑えるべきことである。
　→5年生では、自然環境に対して国や県が・・・国や県に迫る必要がある。
・中心となる事実、何をもって深めていくのか、調べるべきものはなにか抑えてから調べ学習を行うべき。
・抑えるべきことは何?(→どう逃げる?どのくらいの時間がかかる?逃げ切ればいいの?最終では・・・)

瀬谷さくら小学校　場家　誠校長先生

・社会科では、特に「～たい!」に食いつかないことが重要。主体的と意欲的は等しくない。主体的に学ぶ姿は、簡単に判断がつかない。(止まっている児童が思考していることもある)
・みんなで考えないといけない問題って何?ということを考え、「みんなのために役に立ちそうか」という視点に立つことが、社会科の中では重要になる。今後の研究に生かせれば。

【講師の先生より】

西寺尾小学校　副校長　石川　和之先生

〈視点①　子どもが問いや見通しをもち、主体的に学ぶ単元づくり　について〉

・本単元は、あくまでも「国土の自然環境との関連」の中で学ぶもの。
・単元を見通す学習問題を子どもから引き出すために、２時間の個の追求時間、それらを共有する時間をとり、国語の学びを生かした「情報カード」、タブレットの活用が効果的であった。
・単元を見通す学習問題に対する「予想」をすることが、これからの計画を立てることにつながり、子どもも見通しをもって学習を進められるため、子どもに学びをゆだねることができる。
・計画後、調べる中で子どもの中で「分かったこと」と「やっぱり分からないこと」が明確になり、問いが見出される場面に力を入れられると、より子どもにゆだねることができる。

〈視点②　個を生かし、協働的に学びを深める授業づくり　について〉

・提示資料が熱海市役所のKさんの話なので、本時目標の「国や県などの自然条件に…」に話が及ばないが、「県の政策」（静岡モデル）に焦点を当ててみるのもよい。（西…◎　東…△　→ずれ）
・５年は「地図帳や各種の資料で調べ」なので、浸水範囲の広がりは地図帳でも十分理解ができる。
・「でも」発言に教師が耳を傾け「本気の学びの中に、さらに本気をつくる、緊張感をつくる。」ことが大切である。

文責　森下　夏帆　（　稲荷台小学校　）
発　　杉内　翔太　（　　川和小学校　）